

添付資料：HP 掲載文書

お知らせ

<2007年1月1日から2015年6月30日までに川崎医科大学附属病院呼吸器外科において  
原発性肺癌に対して手術を受けられた患者さんへ>

研究課題名：肺門リンパ節転移（N1）を有する非小細胞肺癌の診断・治療・予後に関する検討

現在、『肺癌診療ガイドライン』において、肺門リンパ節転移を有する原発性肺癌に対する標準治療は手術と術後補助化学療法であると示されています。しかし、この中の一部は予後不良であることが知られており、そうした場合には術前に化学療法や化学療法・放射線療法を行った後に手術を行うことで予後の改善が図られていますが、その有用性については未だ十分に確立していません。また、このような場合にはCTやPETなどの検査結果から肺門リンパ節転移の有無を判断することが重要となりますが、その診断方法・精度も十分に確立していないのが現状です。

今回、2007年1月1日から2015年6月30日までに当院呼吸器外科で原発性肺癌のため手術を受けられた方のうち、手術前の画像検査または手術後の病理検査で肺門リンパ節転移陽性と診断された原発性肺癌（非小細胞肺癌）の方を対象として、治療・手術前の診断の正確性や施行された治療、およびその治療成績を検証して、これまで行ってきた診断・治療の成績や問題点を明らかにして、今後の診療・治療の改善を図ることを目的とする研究を行っています。具体的には診療記録（カルテ）より診断・治療に関する情報を収集して解析を行います。遺伝子の検索は行いません。なお、この研究は川崎医科大学・同附属病院倫理委員会の審査・承認を得ていますことを申し添えます。

今回の研究データを将来の研究のために用いたり、他の研究機関に提供したりする可能性があります。その際には研究課題について倫理委員会の審査を再度受け承認を得て実施いたします。

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが生じかねない状態を利益相反状態といえます。

この研究は主任研究者の教員研究費を用いて行う研究であり、この研究を実施する関係者には大鵬薬品工業株式会社より奨学寄付金の受け入れがありますが、利益相反委員会にこの内容を申告し、適正に管理されています。なお、上記企業は、本研究課題には直接関係のない企業です。

この研究への参加を希望されない方、データの送付を希望されない方は、川崎医科大学附属病院呼吸器外科ホームページ（<http://www.kawasaki-m.ac.jp/gts/>）から電子メール

（[gts@med.kawasaki-m.ac.jp](mailto:gts@med.kawasaki-m.ac.jp)）、または川崎医科大学呼吸器外科学教室（直通086-462-1124）または下記研究者に連絡をお願いします。

問い合わせ先：

川崎医科大学附属病院呼吸器外科 医長 最相晋輔

電子メール：[gts@med.kawasaki-m.ac.jp](mailto:gts@med.kawasaki-m.ac.jp)

TEL：川崎医科大学病院代表(086-462-1111)

呼吸器外科実験室(内線 25519)

FAX：086-464-1124